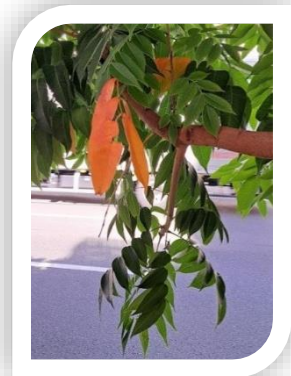


名実ともに「秋」を感じる候となりました。街路樹の「はげのき」が色付いているのに遭遇しました。その写真をこどもたちに見せると、緑とオレンジのコントラストに目を見張っていました。こどもたちもそれぞれ町中の秋の風情を感じていました。

授業で、いろいろな種類のどんぐりや毬（いが）にくるまれた栗を手にとって「痛い、痛い」と大騒ぎするこどもたちは「本物だ」とはしゃいでいました。



9月29日（金）は、「中秋の名月」でした。多くのこどもたちは夜空を見上げていました。月の言い方がいろいろあると知ったこどもたちは「昔の人たちって、どれだけ『月』が好きだったのか」と感心していました。『今日の月』は、満月・十五夜と同じ意味の季語であることを知りました。また、月が出る時間が遅くなっても月の出を心待ちにしている様子が分かる季語に「立待月（たちまちつき）」「居待月（いまちつき）」「寝待月（ねまちつき）」などがあることを学びました。「月はきれいなものだから、『きれいだな』は使わず、俳句を作ってみよう」と声かけしました。

月に関わるこどもたちの俳句を紹介します。

『習い事 帰る途中の 今日の月』

『満月は 明るく照らす 夜の王』

『満月だ ママといっしょの 帰り道』

『ばけものが 到来するよ 月のかげ』

『満月や 雲に隠れて 雲光る』

月は、日々、見え方が変わってきます。

新月・三日月・上弦の月・半月・下弦の月・十五夜・十六夜等々。さて、今夜の月は？

